

廣島縣郷土史談
石橋臥波編纂
完

特31

323

025963-000-2

特31-323

広島県郷土史談

石橋 臥波/編

M27

ADC-3549



石橋 卽波 編纂

廣嶋縣郷土史談

版權所有 教育書局

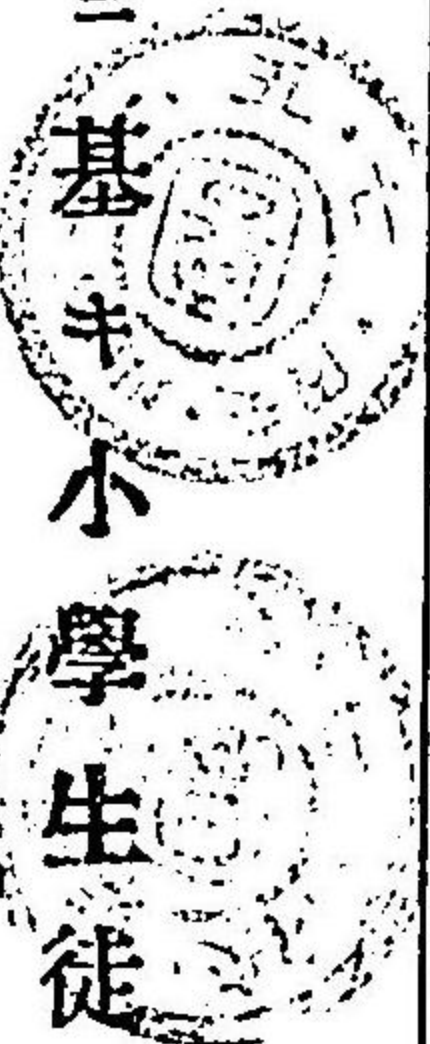
凡 例

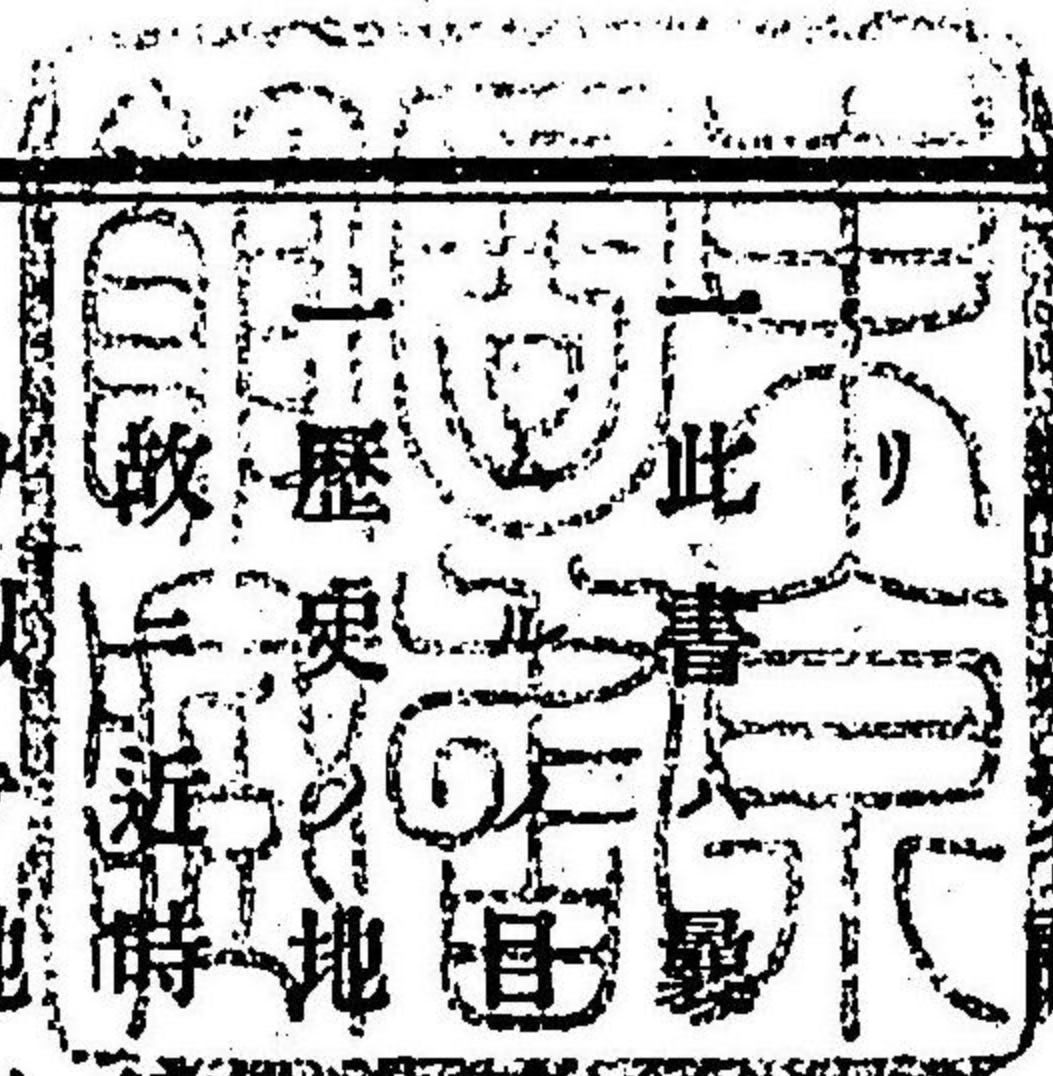
一 此編ハ文部省教則大綱及ビ本縣教則ニ基キ小學生徒ニ
縣下史談ノ大要ヲ知ラシメンガ爲ニ編纂シタルモノナ
リ

一 此書ハ曩ニ予ガ編纂シタル廣嶋縣紀行地誌ト併用セシ
ムルノ目的ナレバ其體裁モ亦相似タリ

一 歴史ノ地理ト密接ノ關係ヲ有スルハ固ヨリ論ナキナリ
故ニ近時地理歴史ノ合著アリ然レドモ如斯ハ往々歴史
ヲ以テ地理ノ附説タラシムルユトアルヲ以テ今此編ハ
主義ヲ紀行体ニ取ルト雖歴史學ノ本色ヲ失ハザラソコ
トヲ務メタリ

一 歴史ハ最モ事實ノ正確ナルヲ要ス故ニ此編ハ舊記史籍
ニ據リ之ヲ各地ノ教育者ニ質シ其明ナラザルモノハ之





凡 例

一 此編ハ文部省教則大綱及ビ本縣教則ニ五ノ六基小縣下史談ノ大要ヲ知ラシメンガ爲ニ編纂シタルモノナ

リ此書ハ曩三予ガ編纂シタル廣鳴縣紀行地誌ト併用セシ

此書ハ曩三予ガ編纂シタル廣鳴縣紀行地誌ト併用セシ

リ此書ハ曩三予ガ編纂シタル廣鳴縣紀行地誌ト併用セシ

トヲ務メタリ
一 歴史ハ最モ事實ノ正確ナルヲ要ス故ニ此編ハ舊記史籍

ニ據リ之ヲ各地ノ教育者ニ質シ其明ナラザルモノハ之



ナ省ケリ然レドモ口碑ノ捨テ難キモノニシテ之ヲ載セ
タルモノアリ
一此書ヲ編纂スルヤ淺井馨君三上主一君森田保之君山本
象六君西川國臣君岸田稼七君戸川喜代馬君森川醇四郎
君村田省三君田邊芳郎君梅田久米太君山上常三郎君唐
崎進君ノ助ヲ受クルコト多シ一言謝セザルヲ得ザルナ
リ

明治廿七年四月

編者 識

廣嶋縣郷土史談目次

發端

第一 歴史學ノ端緒

第二 續キ

總論

第三 起原沿革

第四 續キ

第五 續キ

第六 土地人民ノ變遷附文明

備後國

第七 各郡ノ事蹟

安藝國

頼杏坪 櫻山茲俊 菅茶山 五弓雪窓 宇都宮龍山

第八 各郡市ノ事蹟

阪井虎山 水原桑宅 吉益東洞 辻 維 岳 毛利元就
大内義隆 加藤十千 頼 春水 唐崎常陸介 江木鱒水

結 論

第九 政治ノ沿革

第十 時勢ノ沿革

第十一 商工業ノ沿革

第十二 文學ノ沿革

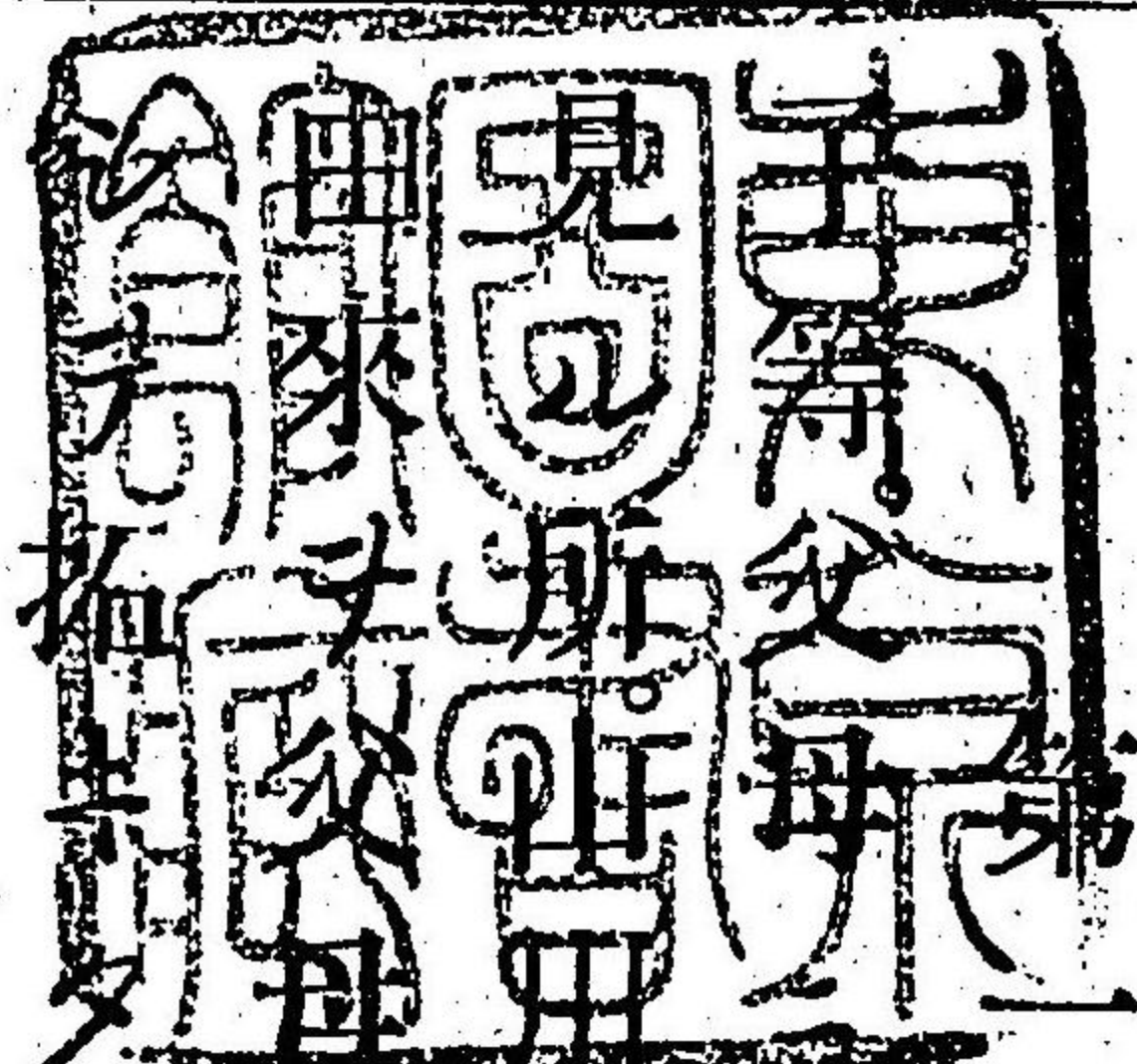
附 錄

歴史年表

廣島縣郷土史談

石橋臥波編述

發 端



歴史學ノ端緒

隨フテ郊外ニ遊ブユトアラン。其丘陵アリ。田圃原野アラン。若シ其ニ聞カバ。數百年ノ昔ハ荒地ナリ。ル田圃モアリ。武人ノ城ヲ築キシ。舊跡アル山丘モアルベシ。此等ノ話ヲ聞ク時ハ。子等ノ心中果シテ如何ゾヤ。必ズ愉快ナル

コトナルベシ

第二 續キ

子等ノ先祖ハ業ヲ始メ家ヲ建テタリ。之ヲ家ノ起原トイフ。其後子孫世々之ヲ守リテ相傳ヘ。或ハ盛ナルコトアリ。或ハ衰ヘタルコトアルベシ。之ヲ家ノ沿革トイフ。家ノ長ハ父母ニシテ。家族ヲ養ヒ婢僕ヲ使フテ家業ヲ營ム。之ヲ家ノ政治トイフ。家集マリテ町村ヲナシ。町村ヲ併セテ市郡トシ。市郡ヲ總ベテ國トス。子等ノ住居スル處ハ。廣島縣ノ管下ナル備後國

安藝國ノ一ナルベシ。然レバ此國ノ起原。沿革政治等ハヨク辨ヘ置クベキナリ。此等ノ事ヲ研究スル學問ヲ歴史學トイフ

總論

第三 起原沿革

廣島縣ハ。備後。安藝ノ二國ヲ管轄シ。備後國ハ東ニアリ。安藝國ハ西ニアリ。抑備後國ハ。上古吉備ト稱シ。今ノ美作。備前。備中。備後地方ノ總稱ナリ。今ヨリ二千五百五十餘年前。第一代ノ天子神武天皇。日向國ヨリ兵ヲ率テ東征シ

阿岐ヲ經テ吉備ノ高島宮ニ御座シ給ヘリ。後七百九十餘年ヲ經テ。成務天皇ノ御代ニ至リ吉備ヲ割キテ備前。備中。備後ノ三國トセラレタリ。安藝國ハ。上古ヨリ阿岐ト稱シ。神武天皇埃ノ宮ニ駐マリ給ヒシユトアリ。

第四 續キ

備後國ハ。初メ御調。世羅。三次。三谿。惠蘇。奴可。龜石。品治。沼隈。安那ノ十郡ナリシガ。後奴可ヨリ三上ヲ分チ。和銅年中。品治ヨリ芦田ヲ分チ。更ニ芦田ヲ割キテ甲奴ヲ置キ。養老年中。安那ヨ

リ深津ヲ分チ。總ベテ十四郡トナル。安藝國ハ古ヨリ沼田。安藝。佐伯。山縣。高田。高宮。加茂。豐田ノ八郡アリ。後分合シテ名稱ヲ改メシガ。寛文四年舊ニ復シタリ。然レドモ其地ハ却テ混雜セリトイフ。

第五 續キ

廣島縣ハ。明治四年ノ頃。安藝國及ビ備後國ノ内御調。世羅。三次。三谿。奴可。三上。惠蘇。甲奴ノ八郡ヲ管轄シ深津。沼隈。安那。芦田。品治。神石ノ六郡ハ。深津縣ノ管下ニアリシガ。同五年深津縣

ヲ小田縣ト改メ。同八年岡山縣ニ合シ。同九年
遂ニ廣島縣ニ併セ。安藝備後ノ兩國ヲ以テ其
管轄トスルニ至レリ。

第六 土地人民ノ變遷 附文明

上古ハ。土地開ケズ人家稀ニシテ。到ル處山岳
曠野ナリシガ。中ニ就キテ人民ノ最モ早ク繁
殖セシハ南方ノ地ニシテ。次第ニ北部ニ至リ
紀元千餘年ノ頃ハ。已ニ多ク聚落ヲナシ。田野
隨フテ開ケ。降りテ五百年前ニ至リテハ。武人
城ヲ各地ニ築キ。人民隨フテ群集セリ。現今小

市ヲナセル處ハ。概子此時代ヨリ賑ヘルナリ
トイフ。人民ノ多ク集マル處ハ。人智ノ開クル
コト早クシテ。衣食住等各其便利ナルモノヲ
發明ス。之ヲ文明トイフ。然レバ我廣島縣ノ文
明ハ。南部ヨリ次第ニ北部ニ進メルモノニシ
テ今尚ホ南方海濱ノ地ハ。最モ文明ニ富メリ
備後國

第七 各郡ノ事蹟

余ハ是ヨリ備後各地ノ事蹟ヲ探ラントス。抑
三次郡ノ三次ハ。三百六十年前。三吉隆信(一説ニハ廣隆トス)

城ヲ比叡尾山ニ構ヘテヨリ。稍市聚ヲナシ。後六十年ヲ經テ慶長五年ニ至リ。福島正則ノ老臣尾關石見ナルモノ。城ヲ尾關山ニ築キケルガ。二十年ヲ經テ。淺野光晟ノ庶兄因幡守淺野長治此地ニ住シ。四代長經ニ至リ早ク死シケレバ。明年其弟長寔住ミシニ。僅ニ九月ヲ經テ夭死セリ。此間凡八十九年淺野氏ノ治所トナリ。市街稍繁華ニ赴キケルガ。遂ニ領地ヲ廣島ノ淺野氏ニ併セ奉行ヲ置ケリ。賴杏坪ハ。竹原ノ人春水ノ弟ニシテ。才學ア

リ。淺野侯ニ仕ヘテ。三次奉行トナリ。民ヲ撫シ荒地ヲ拓キ。孝子義僕ヲ世ニ表ハシ。頗ル功績アリシトイフ。

高野山(惠蘇郡)ハ。今ヨリ七百年前。後鳥羽院隱岐ニ遷幸ノ時。功德寺ニ駐マリ給ヒ。

しやみ山。下を嵐のえげしやに
紅葉の移着ぬえまし

ト詠シ給ヘリトイフ。

山内隆通ハ。戰國ノ頃。甲山ニ居城シ。初メ尼子氏ニ屬シ。後毛利氏ニ屬セリ。

篠津原(三上郡)ハ。戰國ノ頃。西城ノ宮氏。尼子氏
 ノ軍ト激戰セシ舊跡ニシテ。今尙石壘ヲ存セ
 リ。
 西城(奴可郡)ハ。戰國ノ頃。宮氏(一ニ久代氏トイフ初メ久代村ニ居住セシヲ以テナリ)城ヲ
 築キシヨリ。人民次第ニ集マリテ。市聚ヲナス
 ニ至レリ。美古登山ハ。太古ノ比婆山ニシテ伊
 弉册(イサハシ)尊ヲ葬リシ處ナリトイフ。山麓ノ熊野小
 社ハ。卽チ尊ヲ祀レルナリ。東城ハ。凡三百年前
 ニ開ケシ處ニシテ。長尾隼人ノ城趾アリ。
 小畑(神石郡)ハ。奥平氏(オキエビ)ノ治所トナリシ頃(百七

櫻山茲俊兵ヲ舉ルク圖



十餘年)稍繁華ナリシガ
 王政維新ノ後ハ昔時ノ
 如クナラズ。
 宮内(品治郡)ノ吉備津神
 社ハ。推古天皇ノ朝。有鬼
 氏ノ創建ニシテ。吉備津
 彦命(ヒコノミコト)ヲ祀ル。元弘二年。櫻
 山茲俊。此社ニ據リテ勤
 王ノ兵ヲ舉ゲ。社ヲ燒キ
 テ自殺セリ。後水野侯之

ヲ再興シ。今ハ縣社トナレリ。

櫻山茲俊ハ。三原ノ人ニシテ。忠義ノ志アリ。後醍醐天皇ノ朝。北條高時暴威ヲ逞クシ。楠正成勤王ノ兵ヲ赤坂城ニ擧グルニ當リ。茲俊モ亦兵ヲ擧ゲ一宮ニ據ル。既ニシテ正成死セリト聞キ。社ヲ燒キテ自殺セリ。

龜壽山ハ。新市ノ西北ニアリテ。戰國ノ頃。宮氏(西城宮氏ノ宗家)城ヲ構ヘシガ。毛利氏ニ攻メ取ラレタリトイフ。

神邊(安那郡)ハ。建武年中(凡五百六十年前)備後

ノ守護淺山備後守就條ノ城ヲ築ケル地ニシテ。此時ヨリ稍繁華ニ赴キ。後山名氏在住シ。家老杉原氏其後ヲ承ケ。福島正則ノ時ニ及ビ。家老福島丹波此城ヲ守レリ。是レ凡二百七十餘年前ナリ。後水野氏備後ノ東南部ヲ領シテ此地ニ治シ。三年ニシテ福山ニ移ル。是ヨリ漸ク衰微セリ。其城跡ヲ黃葉山トイフ。

菅茶山ハ。神邊ノ人ナリ。幼ヨリ學問ヲ好ミ。京都ニ往キテ業ヲ修メ。學深ク詩ニ巧ミナリ。郷里ニ販リテ生徒ヲ導ク。遂ニ福山侯ニ

知ラレ。俸五口ヲ賜フ。
時ニ寛政四年(今ヨリ
百年前)ナリ。後生徒益
進ミケレバ。官ニ請フ
テ其塾ヲ郷校トセリ。
其文學ニ功アリシユ
ト實ニ大ナリトイフ。
門田朴齋ハ。百谷村ノ
人ナリ。菅茶山ノ門ニ
入リ。後賴山陽ニ學ビ。

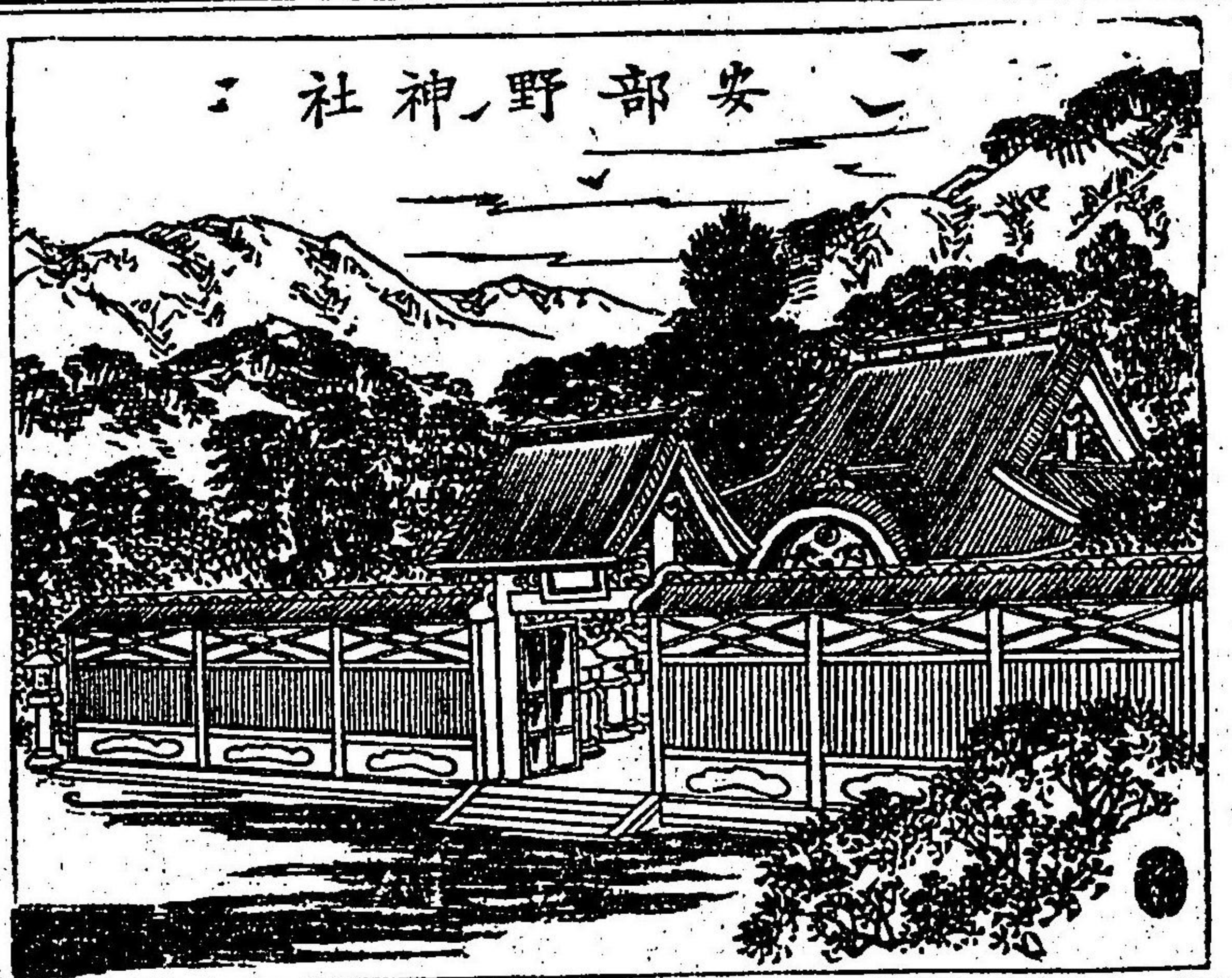


菅茶山
先生之像

文政十二年。阿部侯ニ仕ヘテ儒員トナリ。職
ニ在ルコト三十一年。頗ル慷慨ノ志アリ。明
治六年一月死セリ。

府中市(芦田郡)ハ。昔時芦田川瀆ニシテ。市街ハ
今ノ國府村府川ノ内ニアリシガ。水野氏ノ時
河流ヲ變ジ人家ヲ移シテ。今ノ市街ヲナセリ。
傳ヘイフ。備後國府ハ。栗生村栗柄ノ内ニアリ
シト。府中ノ名是ニヨリテ起レルナリ。
五弓雪窓ハ。府中ノ人ニシテ。世々神職タリ
幼ヨリ學ヲ好ミ。專ラ歴史ヲ研究シ。年十七

大阪ニ往キ江戸ニ遊ビ。後販リテ福山侯ニ
 用ヰラレ。明治七年。太政官修史局御用掛ト
 ナリ。尋テ三等協修トナリ。母ノ病ニヨリテ
 職ヲ辭シ。明治十九年死セリ。
 福山(深津郡)ハ。元和五年(凡二百七十年前)領主
 水野日向守勝成。神邊ヨリ移リテ城ヲ築ク。是
 ヨリ漸ク繁華ノ地トナレリ。後四代ヲ經テ元
 祿十三年ニ至リ。松平下總守忠雅。此城ニ治シ
 寶永七年。阿部備中守正邦之ニ代リ。十代正桓
 ニ至リ。明治維新ノ改革ニ遇ヒ。遂ニ城ヲ致ス。



阿部氏此地ニ居ルコト
 凡百六十一年ナリ。其城
 ハ。現時外郭ヲ毀テ田
 圃トシ。牙城ヲ存シテ公
 園地トス。内ニ阿部神社
 アリ。舊ト勇鷹神社ト稱
 シ。文化九年。阿部正精ノ
 創建ニ係リ。其祖大彦命
 ヲ祀ル。明治十年四月縣
 社トナレリ。

誠之館ハ。安政二年。藩主阿部正弘ノ創立セ
ルモノニシテ。其號ハ水戸藩主徳川齊昭ノ
題セル所ナリ。初メ福山藩士族ノ子弟ノミ
ヲ教授シ。後一般人民ノ入學ヲ許シ。大ニ學
事ヲ獎勵セリ。爾後幾多ノ變遷ニ遇ヒ。小田
縣。岡山縣等ノ師範學校トナリ。明治八年ノ
頃ハ。小學校トナリテ衰頽ヲ極メシガ。舊藩
主阿部正桓。及ビ有志者之ヲ維持シ。尋デ尋
常中學校トナリ。今ハ縣立中學校トセリ。
蔀山ハ。足利十三代ノ將軍義昭。鞆ヨリ移リ住

ミシ館趾ニシテ。遂ニ此地ニ薨ゼリトイフ。
鞆(沼隈郡)ハ。古名ヲ渡守トイヒ。神功皇后三韓
ヲ征伐シ給ヒシ時。糸崎ヨリ此地ニ渡リテ。鞆
ヲ治メ給ヘルユトアリ。鞆津ノ名是ヨリ。起リ
シナラン。足利氏ノ時ニ至リ。西國探題足利直
冬。在住シ。戰國ノ頃。將軍義昭。毛利輝元ニ倚ラ
ントシテ。此地ニ來リケレバ。輝元之ヲ公方ニ
居ラシム。福島氏ノ時。其臣大崎玄蕃ヲシテ。此
地ヲ守ラシメ。城ヲ古城山ニ築キシガ。半途ニ
シテ止メリ。沼名前神社ハ。明治維新ノ初。祇園

社ヲ改造シ。渡守神社ノ神靈ヲ合祀シタルモ
ノニシテ。今之ヲ國幣小社トス。祇園神社ハ。天
長元年ノ創建ナリトイヒ。或ハ保元年中ナリ
トイヒ。或ハ正慶三年僧道昭ノ建立ナリトイ
ヒ。其説定マラズ。渡守神社ハ。神功皇后征韓ノ
途次。航路ノ無難ヲ祈リテ造營シ。勅ヲ以テ神
体トナシ給ヘルナリトイヒ。傳フ。此郡ニ水呑
村。田尻村アリテ。其東偏ヲ宮崎トイフ。此地ハ
第一代ノ天子神武天皇ノ駐マリ給ヘル高島
ノ宮趾ナリトイフ。即チ武宮ハ天皇ヲ祀レル

ナリ。

尾道(御調郡)ハ。玉浦ノ山ノ尾ノ道トイヘルヨ
リ起リタル名ニシテ。其由來最モ舊ク。神社佛
閣ノ創建舊キモノ多シ。後方ノ千光寺山ハ。天
正年中。杉原元經ノ居城セシ處ニシテ。其寺ハ。
凡千百餘年前ノ創立ニ係リ。多田滿仲ノ再建
ナリトイフ。寺内ニ烏帽子岩アリ。古昔岩上ニ
寶珠アリテ。其光常ニ海面ヲ照ス。故ニ此地ヲ
玉浦ト稱ヘ來レリトイフ
宇都宮龍山ハ。幼ヨリ學ヲ好ミ。才智アリ。長

ズルニ及ビ業大ニ進ミ。晩年塾ヲ此地ニ開
キテ。生徒ニ教授セリ。其功大ナリケレバ。朝
廷ヨリ賞賜セラル、ニ至ル。明治十九年八
月歿ス。淨土寺内ニ一大石碑ヲ建テ、其名
ヲ存セリ。

淨土寺ハ。推古天皇ノ朝。聖德太子ノ開基ニ
シテ。八幡宮ハ。應神天皇ヲ祀リ。貞觀年中ノ
創建ナリ。長江ノ天神社ハ。延喜元年正月。菅
原道實左遷ノ時。自ラ狩衣ノ袖ヲ裂キ。像ヲ
寫シテ留メ去リシニヨリ。之ヲ祭レルナリ。

此地ハ。上古山麓ノ餘地ナリシガ。早夕内海ノ
航海開ケ。船舶集散ノ要衝ニ當レルヲ以テ。人
烟繁華ニ赴キ。次第ニ海面ヲ埋メテ市街トナ
シ。商業繁昌シテ。今ハ縣下ノ第一ト呼バル、
ニ至レリ。糸崎ハ。神功皇后三韓ヲ征伐シ給ヒ
シ時。御船ヲ寄セラレ水ヲ汲マセ給ヘルコト
アリ。長井ノ水是ナリ。三原ハ。天正年間。小早川
隆景ノ居城セシ地ニシテ。慶長五年ニ至リ。福
島正則。其子正之ヲシテ守ラシメ。淺野氏ノ時
ニ及ビ。老臣淺野忠吉居住シ。十二代忠英ニ至

り。明治維新ノ世トナリ
テ。遂ニ城ヲ致セリ。上古
ノ國道ハ。東御野村(安那
郡)ヨリ。加茂(全宮内(品治
郡)廣谷(芦田郡)宇津戸(御
調郡)ヲ經テ。西安藝國ニ
入リシガ。三百年前ニハ。
今津。三成。深ヨリ。三原ニ
出デシトイフ。此頃ヨリ
漸々繁華ニ至レルナル

三原城之圖



ベシ。

甲山(世羅郡)ハ。戰國ノ頃。毛利元輔ノ居城也シ
處ナリ。今高野山ハ。嵯峨天皇ノ弘仁十三年。僧
空海ノ開基ナリトイフ。今ハ大ニ頽廢也リ。
上下(甲奴郡)ハ。元祿以後。幕府ノ陣屋ヲ置キテ
近郡ヲ治メシ處ニシテ。當時ヨリ稍繁華ニ赴
ケリトイフ。田房ノ川平山ハ。戰國ノ時。田總氏
ノ居城也シ處ニシテ。田房ノ小邑ハ。其名ヲ存
セルナリ。
吉舍(三谿郡)ハ。承久ノ亂ニ。後鳥羽院ノ駐マリ

給へル舊跡ナリ。富士山ハ。備後小富士トイヒ。後醍醐帝西遷ノ時。

知らず問えむ富士やいん
備後ふる富士の山は峰の白雪

ト詠ジ給へリトイフ。

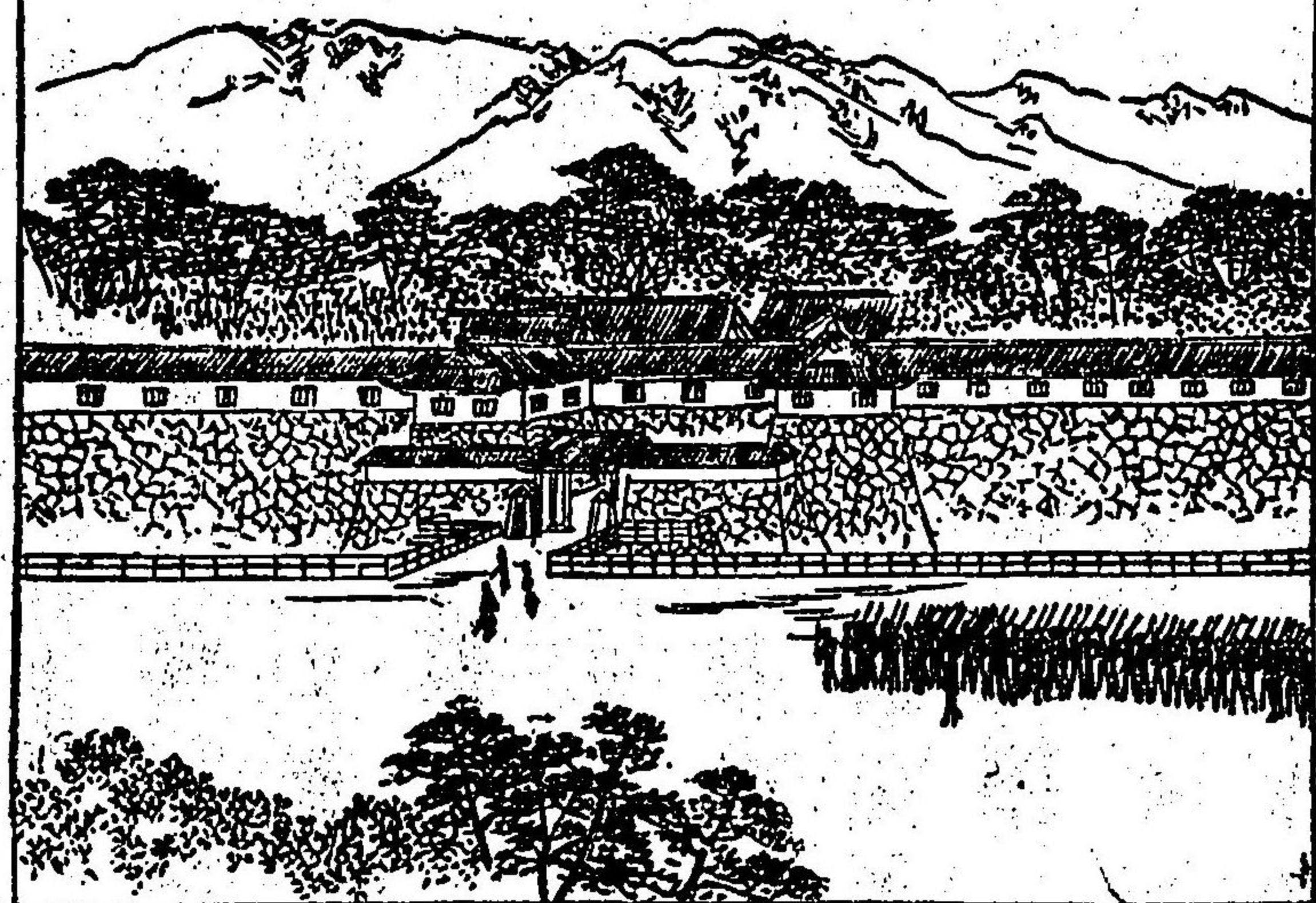
安藝國

第八 各郡市ノ事跡

余ハ。是ヨリ安藝國各地ノ事蹟ヲ探ラントス。抑廣島(廣島市)ハ。上古入海ニシテ。漸々處々ニ人家ヲ建テ農業ヲ事トシ。分チテ五箇莊。又五

ヶ村ト呼ビ。寂寥タル地ナリシガ。天正十七年。毛利元就ノ孫輝元。地ヲ相テ城ヲ築キ。高田郡吉田ヨリ移リテ。名ヲ廣島ト改メ。是ヨリ士民集マリ。漸ク繁華ノ地トナレリ。慶長五年。毛利氏長州ニ移リ。福島正則藝備兩國ヲ領シテ。此城ニ居ルコト二十年。元和五年。淺野但馬守長晟。安藝及ビ備後北部ノ八郡ヲ領シテ。此城ニ治シ。十二代長勳ニ至リ。明治維新ノ改革ニ遇ヒ。遂ニ城ヲ致セリ。淺野氏ノ居ルコト實ニ二百五十三年ナリ。中央ニ聳ユル舊城ハ。即チ

廣島城ノ圖



其治所ニシテ。明治六年。廣島鎮臺トナリ。今第五師團トス。此地海陸ノ要衝ニ當レル城市ナルヲ以テ。商業漸ク繁昌シ。明治四年以來縣治トナリ。特ニ明治十八年。千田貞曉知事タリシ時。宇品港ヲ築キシヨリ。益々運輸交通ノ便ヲ占メ。市街ノ繁

繁華大阪以西ノ第一ト稱ス。饒津神社ハ。淺野氏ノ祖長政ヲ祀ル所ニシテ。今ハ縣社トナリ。其境内ヲ公園トセリ。國泰寺ハ。元祿三年。僧惠瓊ノ開基ニシテ。初メ安國寺ト稱シ。福島正則ノ時。今ノ名ニ改メタリ。後淺野氏ニ及ビ。其菩提所トナリ。今尙舊規ヲ存セリ。

修道館ハ。天明元年。淺野氏ノ創立ニシテ。賴春水等ヲ聘シ。藩士ノ子弟ヲ養成ス。爾來多クノ星霜ヲ經テ。明治維新ニ至リ廢校トナリシガ。十一年。淺野學校興リテ其後ヲ承ケ。

十五年。改革シテ修道學校ト稱シ。十九年ニ至リ故アリ廢校トナル。

阪井虎山ハ。比治山ノ人ニシテ。幼ヨリ才氣人ニ超ユ。家貧ナルヲ以テ。薪ヲ負ヒ米ヲ舂キテ親ニ奉ジ。傍ラ藩校ニ通學シテ。業大ニ進ム。文政八年。藩校ノ教授トナリ。嘉永三年。病ミテ歿ス。享年五十三。其教育ニ功績アルヲ以テ。饒津公園ニ一大碑ヲ建テ。名ヲ不朽ニ傳フ。

木原桑宅ハ。慎一郎ト稱ス。幼ヨリ學問ヲ好

ミ。阪井虎山ヲ師トシ。學業上達セリ。人トナリ。温厚ニシテ孝心深ク。又慷慨ノ志アリ。淺野侯ニ仕ヘ。供頭トナル。明治十四年。享年六十八ニシテ歿ス。後門生等相謀リ。碑ヲ公園ニ建テタリ。

吉益東洞ハ。幼キ時馬ヲ馳セ劍ヲ擊ツコトヲ務メシガ。偶感ズル所アリ。京都ニ往キテ醫業ヲ修メ。其蘊奥ヲ極ム。天下ノ醫風爲ニ一變セリトイフ。安永年中。年七十二ニシテ歿セリ。

辻維岳ハ。父ヲ又五郎維祺トイフ。文政六年七月四日ヲ以テ廣島ニ生ル。初ノ名ハ勘三郎。後ニ將曹ト改メ。遂ニ維岳ト稱ス。弘化三年四月家ヲ嗣ギ。秩祿千二百石ヲ受ケ。淺野家側頭役トナリ。又廣島藩先鋒隊長。及ビ騎馬隊長トナレリ。文久二年。執政職兼國事係トナリ。京都ノ諸藩邸ニ往來シテ。大ニ幹旋スル所アリ。慶應三年十二月。朝廷ヨリ徵士參與ヲ命ゼラレ。爾來內國事務局判事。大津縣知事。待詔下院出仕。宮內省御用係。元老院

議官麿香間祇候ノ諸官ヲ命ゼラレ。從五位ヨリ從四位ニ進ミ。勳三等ニ叙シ。特ニ華族ニ列セラレ。男爵ヲ授ケラル。明治二十七年一月三日病ミテ卒スルニ臨ミ。特ニ位一級ヲ進メ。正四位ニ叙セラル。實ニ廣島ノ一偉人トイフベシ。

銀山ハ。一ニ武田山トイフ。足利將軍ノ頃。武田信宗。安藝ノ守護トナリテ之ニ居リ。子孫相繼ギシガ。戰國ノ頃。武人各地ニ起リ。守護ノ勢力ヲ失ヒケレバ。遂ニ毛利氏ニ屬セリトイフ。

高松城(高宮郡)ハ。熊谷信直ノ居城也。シ處ニシテ。世々毛利氏ニ屬セリ。福王寺ハ。天長五年。嵯峨院ノ建立シ給ヘル所ニシテ。武田氏ノ再興ナリトイフ。

吉田(高田郡)ハ。五百六十年前。建武年中。毛利時親此地ヲ領シ。九代備中守弘元ノ子興元ノ時ニ至リ。其弟元就。猿掛城主丹治比氏ノ家ヲ嗣ギケルガ。興元ノ子幸松天死シケレバ。元就遂ニ毛利氏ノ後ヲ承ケ。勢俄ニ強大トナリ。近傍ノ諸州ヲ併セ。吉田ヲ府城トセリ。當時此地ノ

繁華京都ニ亞ゲリトイフ。慶長年中。輝元城ヲ廣島ニ移シ。ヨリ。繁華頓ニ衰へ。明治維新前數年ノ間。淺野長厚此地ヲ守リシガ。改革ニ遇ヒテ去リ。今ハ山間ノ一小市ノミ。其城跡ヲ郡山トイヒ。元就ノ墳墓アリ。

毛利元就ハ。大江廣元ノ裔ニシテ。幼ヨリ器量アリ。長ジテ能ク兵ヲ用ウ。遂ニ近傍ノ諸邑ヲ併セ。尼子氏ニ屬シ。後大内義隆ニ屬セリ。義隆ノ陶晴賢ニ弑セラル。ニ及ビ。遺托ニ由リ。晴賢ヲ嚴島ニ襲殺シ。後尼子氏ヲ攻

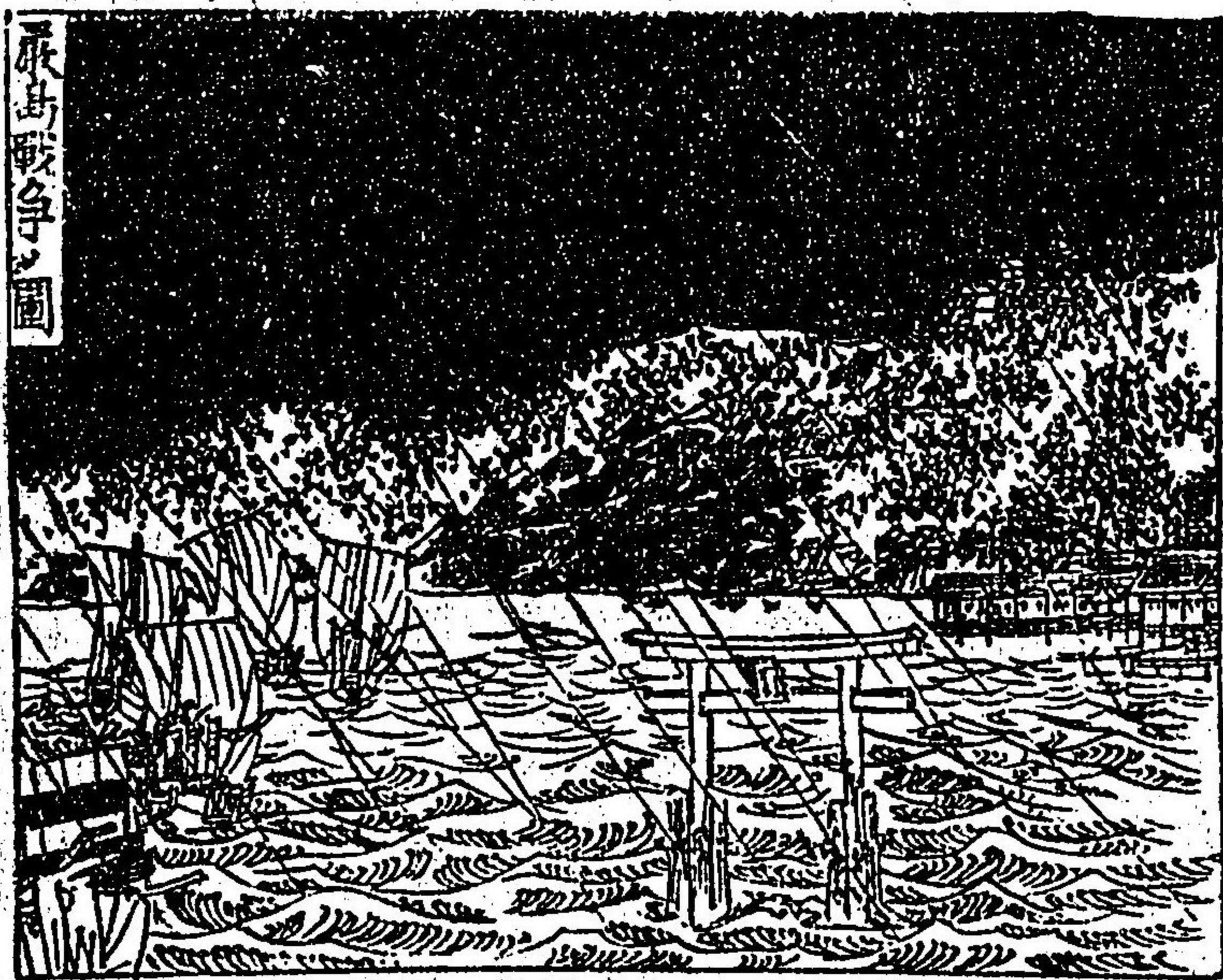
メ降シ。山陰山陽十州ヲ領スルニ至レリ。元龜二年病歿ス。甲立五龍山ハ。肉戸氏ノ城ヲ構ヘシ處ニシテ。船佐村ノ笹部ハ。元就ノ子隆元ノ病死セシ地ナリ。今常榮寺ニ墳墓アリ。又丹治比ニハ猿掛城趾アリ。



墓之就之利毛

新庄ノ尖山(山縣郡)ハ。戰國ノ頃。吉川氏ノ居城也シ處ニシテ。麓ニ吉川元春ノ墳墓アリ。元春ハ元就ノ次子ニシテ。大朝ノ吉川興經ノ家ヲ繼ギ。隆景ト共ニ輝元ヲ輔佐セリ。可計ハ五百六十年前。加計某ノ開キシ處ニシテ。其氏ヲ以テ名トセリトイフ。

廿日市(佐伯郡)ハ。豊臣秀吉關戸ヨリ上陸セルコトアリトイヘバ。此地ノ夙ニ開ケテ名邑タリシヲ知ルベキナリ。櫻尾山ハ。戰國ノ頃。嚴島ノ神主佐伯氏居城也シガ。大内氏ニ攻メラレ



テ亡ビ。後毛利氏此城ヲ降セリ。嚴島神社ハ千三百年前推古天皇ノ朝此島ノ人佐伯氏ノ官奏ヲ經テ創建セルモノニシテ。市杵島姫命ヲ祀レリ。今之ヲ國幣小社トス。平清盛深ク此神ヲ信仰シ。社殿ノ規模ヲ宏大ニセリ。御山ノ金剛峯寺ハ大

同年中。僧空海ノ開基ナリトイフ。昔毛利元就。陶晴賢ヲ此島ニ襲フ。今其大略ヲ話スベシ。

大内義隆ハ。世々周防國山口城ニ居リ。勢甚ダ強大ナリシガ。其臣陶晴賢義隆ヲ弑シ。其領地ヲ奪フ。義隆死ニ臨ミ。書ヲ毛利元就ニ遺シテ。仇ヲ復サンコトヲ托ス。元就乃チ討賊ノ勅許ヲ請ヒ。城ヲ嚴島ニ築キテ敵ヲ誘ヒケレバ。晴賢。步騎三萬。軍艦千餘艘ヲ以テ之ヲ攻ム。元就。風雨ノ夜ニ乗ジ。精兵三千ヲ

以テ嚴島ニ渡リ。大ニ敵ノ陣營ヲ破リケレバ。晴賢窮蹙シ。遂ニ自殺セリ。

慶應元年。長州征伐アリ。玖波ノ北ナル四十八坂ニテ。長兵幕兵ト激戦シ。幕兵ノ將榊原氏敗北ス。大野。大竹。廿日市。皆兵陣トナレリ。樽鼻ハ神功皇后御征韓ノ時。樽ヲ傾ケテ犒ラヒ給ヘルコトアリトイフ。

府中(安藝郡)ハ。古ヨリ安藝國府ノアリシ處ニシテ。其名。蓋シ是ヨリ起ル。埃宮ハ。神武天皇御東征ノ時。駐マリ給ヘル舊趾ニシテ。今ハ多家

神社アリ(古番ニ多岐。理管トアリ)

尾長尾村瑞川寺ハ。其開基詳カナラザレドモ。毛利元就城ヲ廣島ニ築ケル時。此寺ニ來レリトイフ。

加藤十千ハ。海田市ノ人ニシテ。幼ヨリ學問ニ勉勵シ。長ジテ藝州侯ニ仕ヘ。祿四十石ニ至ル。安永年中。年八十ニシテ死セリ。天性順良ニシテ。親ニ孝ニ。師ヲ尊ビ。且忠勤ヲ抽デシトイフ。馬背山ニ石碑アリ。

吳ハ。近時海軍鎮守府ノ所在地トナリシヨリ。

○廿一
遠ニ有名ナルニ至リ。市街年ヲ追フテ開ケリ。
西條(賀茂郡)ハ。戰國ノ頃。菅田氏ノ居城セシ處
ニシテ。蓋シ當時ヨリ開ケタルナラントイフ。
竹原ハ。淺野侯ノ時。嚴島。廣島。三次。尾道ト共ニ
町奉行ヲ置キシ處ナリ。五十宮ノ忠孝ノ石碑
ハ。支那ノ文天祥ノ書ヲ刻ミタルモノニシテ。
寛政八年。唐崎常陸介ノ建テシ所ナリ。
賴春水ハ。此地ノ人ニシテ。彌太郎ト稱ス。春
水ハ其號ナリ。幼ヨリ學ヲ好ミ。長ジテ京都
ニ遊學シ。業大ニ進ム。後藝州侯ニ仕ヘ。力ヲ

文學ニ盡シ。政治ヲ輔
ク。行端正ニシテ。妻子
ト雖其情容アルヲ見
ズ。襄ハ久太郎ト稱シ。
春水ノ子ニシテ。亦文
學ニ長ジ。郷里ヲ出デ
、四方ニ遊寓セリ。世
ニ山陽外史トイフハ
此人ニシテ。日本外史。
日本政記等ノ書ヲ著



賴春水
先生
之像

シ。勤王ノ志ヲ述ベタリ。
 唐崎常陸介ハ。五十宮ノ祠官ニシテ。勤王ノ
 士高山彦九郎ト友情厚ク。常ニ國事ヲ憂ヒ。
 勤王ノ志深シ。寛政八年。年六十ニシテ死セ
 リ。
 和賀神社ハ。其由來ヲ詳カニセズ。明治二十三
 年。改メテ社殿ヲ宏大ニシ。縣社トナス。是レ小
 早川氏ヲ祀レルナリ。小早川氏ハ。世々豊田郡
 ノ豪族ニシテ。正平年中。毛利元就ノ三子隆景
 ヲシテ家ヲ繼ガシム。其城趾ハ本郷村ニアリ。

江木鰐水ハ。入野ノ人ニシテ。頼山陽ニ學ビ。
 福山侯ニ仕ヘテ。儒員トナレリ。詩文ニ巧ミ
 ニシテ。且兵學ニ通ゼリ。其勤勉ナルコト人
 ニ絶セリトイフ。
 古ノ國道ハ。豊田郡ノ眞良。造賀ヨリ。大山(加茂)
 府中ヲ經テ。大町。伴(沼田)石内。大野。小方。木野(佐
 伯)ニ通ゼシガ。爾來世ヲ經ルニ從ヒテ。今ノ如
 クナレリトイフ。
 南ノ海ハ。水島灘ニシテ。上古ヨリ航路開ケタ
 リ。御手洗港(大崎島)ハ。古來航海ノ業大ニ進ミ。

其名著ハレシガ。近時瀛船ニ壓セラレ。遽ニ衰退セリ。隱戸ノ瀬戸ハ。昔時地頸タリシヲ。平清盛安藝守タリシ時。鑿開シテ船ヲ通ズルニ至レリ。海中ニ清盛塚ヲ建ツ。本浦(江田島)ハ。古來造船ノ業大ニ進ミ。明治二十一年八月。海軍兵學校ヲ置カレシヨリ益賑ヘリ。是ヨリ宇品港ニ着ケバ。西ニ嚴島ヲ見。遙ニ廣島市街ヲ望ミテ。轉感慨ノ情ニ堪ヘズ。

結論

第九 政治ノ沿革

上古ノ時代ハ知ルベカラズト雖。七百五十年前。平清盛安藝守トナリ。尋デ天下ノ政治ヲ支配スルニ至リ。山陰。山陽。南海道ノ諸國ハ。平氏ノ領地トナリ。後源氏ノ支配トナリ。足利氏ノ中頃ニ至リテハ。備後國ハ山名氏之ヲ領シ。安藝國ハ武田氏守護トナリ。後天下大ニ亂レ。武人各地ニ據リテ。相戦ヒシガ。三百八十年前毛利元就。勢漸ク強大トナリ。山陰山陽十餘州ヲ支配シ。孫輝元ニ至リ。吉田ヨリ廣島ニ移リ。城ヲ築キテ住セリ。慶長五年。徳川家康。福島正則

○廿四
ヲ藝備ニ封ジ。後二十年ヲ經テ。更ニ淺野長晟
ヲ安藝及ビ備後北部ニ。水野勝成ヲ備後南部
ニ封ズ。淺野氏廣島ニ居リ。水野氏神邊ニ在リ。
後福山ニ移ル。是ヨリ藝備管轄ヲ異ニシ。以テ
明治四年四月ニ至レリ。此頃ハ藩ノ政治ニシ
テ。今ノ政治トハ其趣ヲ異ニセシガ。七月廢藩
置縣ノ詔アリ。安藝及ビ備後北部ヲ廣島縣ト
セリ。是ヨリ郡縣ノ政治トナリ。形勢一變セリ。
當時備後南部ハ。小田縣ニ屬セシガ。明治九年
ニ至リ廣島縣ニ合シ。藤井勉三。千田貞曉等令

トナリ。後官名ヲ知事ト改メラレ。明治二十三
年。鍋島幹其後ヲ承ケ。今尙職ニ在リ。

第十 時勢沿革

上古ノ時代ハ。國內無事ナリシガ。足利氏ノ中
頃ニ至リ。出雲ノ尼子氏兵ヲ出シ。連年毛利氏
ト戰ヒ。武人各分屬シ。國內大ニ亂レタリ。後毛
利氏近國ヲ服從シ。輝元ノ時ニ至リ。國內平定
シ。復タ大亂アルコトナシ。享保五年(百七十年
前)凶作ニ由リ。餓死スル者多ク。天保七年(五十
七年前)五穀實ラズ。人民大ニ苦ム。慶應元年。長

州征伐ノユトアリ。幕兵廣島ヲ牙營トシ。周防ノ國境ニ迫ル。藝備ノ士民亦自國ヲ守リ。國內騷然タリ。明治四年。廢藩置縣ノ詔アリ。藩主ヲ東京ニ召サル。山縣郡ノ士民之ヲ止ムルヲ名トシ暴舉ヲ企テ。應ズル者甚ダ多カリシガ。主唱者數人ヲ斬罪ニ處シ。事平定セリ。之ヲ維新ノ百姓一揆トイフ。其後國內平穩ニシテ。實業大ニ進ミ。人民各其業ヲ勵ム。

第十一 商工業ノ沿革
 商工業ノ進否ハ。世ノ治亂ニ關スルモノナレ



文學及商工業盛ノ圖

バ。戰國時代ノ騷擾治マ
 ルニ及ビテ。各地ノ人民
 各其業ヲ勵ミシヨリ。次
 第二發達セルモノナル
 ベシ中ニ就キテ尾道。廣
 島等ハ。海陸ノ要地ニ當
 レルヲ以テ。其商工業ノ
 繁昌スルユト最モ早ク。
 明治維新以後ニ至リテ
 ハ。運輸交通ノ便大ニ開

ケタルヲ以テ。益々盛ナルニ至レリ。

第十二 文學ノ沿革

藝備文學ノ興リシハ。今ヨリ凡百年前ニシテ。實ニ賴春水。菅茶山ヲ首トス。蓋シ天明元年淺野侯。藩學ヲ興シ。春水ヲ召シテ儒員トシ。藩士ノ子弟ヲ薰陶セシム。春水乃チ力ヲ文學ニ盡シ。又政治ヲ輔ク。菅茶山亦塾ヲ神邊ニ開キ。人才ヲ陶冶シ。後請フテ郷校トナス。是ヨリ人才輩出スルニ至レリ。安政元年。阿部侯。誠之館ヲ興シ。後何レモ庶民ノ入學ヲ許シ。洋學。漢學。數

學等ヲ授ク。明治維新以後。廣島ニ師範學校。中學校。淺野學校(國學ヲ繼承セシモノ)アリ。福山ニ中學校。誠之館(全上)アリ。其他諸種ノ學校相尋デ起リ。小學校ハ到ル處其設アリテ。年ニ隆盛ニ赴ケルハ。實ニ明治太平ノ恩澤ナリ。

附 錄

歷史年表

第一代神武天皇埃宮ニ御座シ給フ……紀元前
吉備高島宮ニ御座シ給フ……全

第十代崇神天皇吉備津彥命ヲ西國ニ遣シ給
フ……紀元五 七 三

第十三代成務天皇吉備ヲ割キテ備前備中備
後トセラル……紀元七 九 五

第十四代仲哀天皇神功皇后水島灘ヲ航シ給
フ……紀元八 五 九

第三十三代推古天皇二年嚴島神社ヲ建ツ

紀元一二五四

第七十六代近衛天皇久安二年平清盛安藝守

紀元一八〇六

トナル

第九十六代後醍醐天皇元弘二年櫻山茲俊義

紀元一九九二

兵ヲ舉グ

第一百四代後奈良天皇弘治元年毛利元就陶晴

紀元二二一五

賢ヲ嚴島ニ襲フ

第一百六代後陽成天皇慶長四年毛利輝元廣島

紀元二二五九

城ヲ築キ成ル

慶長五年

元山口ニ移封
福島正則藝備ニ封セラレ

紀元二二六〇

第一百七代後水尾天皇元和五年淺野長晟藝備

ニ封ゼラレ水野勝成備後南部ニ封ゼ

ラル

紀元二二七九

元和六年水野勝成福山ニ城ヲ築キ移

ル

紀元二二八〇

第一百十三代中御門天皇享保五年凶作

紀元二三三八〇

第一百十八代光格天皇寛政九年藝備孝義傳成

ル

紀元二四五七

第百十九代仁孝天皇天保七年凶作

紀元二四九六

第百二十代孝明天皇慶應元年長州征伐アリ

紀元二五二五

第百二十一代今上天皇廢藩置縣ノ詔アリ

紀元二五三一

百性一揆アリ

全

明治七年廣島師範學校ヲ設ク

紀元二五三四

全八年小田縣ヲ廢シ岡山縣ニ合セラ

ル

全九年藝備兩國一縣トナル

紀元二五三五

紀元二五三六

全十八年車駕廣島ニ幸シ給フ

紀元二五四五

誤 正

五葉表四行目割註 久代氏ハ久代殿

六葉表八行目 茲俊ハ茲俊

九葉表捕書 阿部野神社ノ野ハ衍

十五葉表初行目 繁ノ字ハ衍

廿一葉表二行目 尾長尾ノ字ハ衍

明治廿七年四月廿八日印刷
明治廿七年五月五日發行

定價金拾五錢

(廣瀨縣郷土史談興會)

版權所有

印發行
者兼

吉岡平助

大阪市東區備後町四丁目七拾八番屋敷

大賣所

廣島市西橫町	松村善助
同 中島町	三木文明堂支店
同 大手通二丁目	早速社書店
同 平田屋町	森盛文堂支店
同 備後三上郡庄原	積善館支店
同 尾道土堂町	森盛文堂
同 安藝忠海	三木文明堂
	田上三郎

